



レンズを通して観る浮世

—— 広重の名所の「いま」を撮る

2024年11月23日(土) 13時30分 - 16時15分 (13時開場)

京都工芸繊維大学 60周年記念館

事前申込不要 参加無料



東京大学グローバル教育センター特任講師
ブエノ・アレックス氏
大判カメラを担いで広重を追いかける



同志社大学文学部美学芸術学科教授
佐藤 守弘氏
歴史を並べる一定点写真とリフォトグラフィ

江戸時代を代表する浮世絵師である歌川広重（1797-1858）の名所絵版木の傑作《江戸名所百景》（安政4年/1857）は、幕末の江戸の名所を斬新かつ叙情的なアングルで切り取っている。いまや官庁街の霞ヶ関ではのどかに風揚げをしており、上野の不忍池はいまも変わらぬ花見客の賑わいがみられる。広重の目を通して、現代のわれわれは、江戸のまちの様子を身近に、そして、どこか懐かしい気持ちで感じることができる。一方、おなじ広重の《京名所》（天保5年/1834頃）は、嵐山や金閣寺といった京の内外の名所を季節感ゆたかに描き出している。

広重が京や江戸のまちを活写してから2世紀近くを経たいま、京都も東京も大きく様変わりをしている。道路も建物も乗り物も、もちろん人びとの服装や行動も変わっている。祇園社や清水寺のような社寺はともかく、品川にしても滝野川にしても、もちろん霞ヶ関にしても当時の面影は残っていないようにみえる。広重が描いた名所のなかには、もはや名前を残すだけのところすらある。でも、ほんとうにそうだろうか。広重の品川とわれわれの品川には、じつは底流のように通じ合う「なにか」があるのではないだろうか。それを写し取ろうとしているカメラマンがいる。

今回のシンポジウムでは、美術工芸資料館で開催中の展覧会「レンズを通して観る浮世—広重の名所の「いま」を撮る」の一環として、広重の描いた名所の「いま」を撮影しているアメリカ人写真家ブエノ・アレックス氏と視覚文化論を専門とする佐藤守弘氏を招いて、本歌である広重作品がどのように現代によみがえっているのか、その工夫と見所について熱く語っていただきたいと思っています。



Photo by Alex BUENO

写真：ブエノ・アレックス

表面《浅草2-3-1浅草寺》

《京名所 嵐の森、嵐山》

裏面《日本橋室町1-5/2-2（江戸板橋通&中央通り：室町2）

2011年3月4日 12時》

○開催日時・会場

日時：2024年 11月 23日（土） 13時30分～16時15分（13時開場）

会場：京都工芸繊維大学 60周年記念館

※ 本シンポジウムは、後日動画配信を予定しています。

○お問合せ

京都工芸繊維大学附属図書館

〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町

TEL: 075-724-7185 E-Mail: library@jim.kit.ac.jp

○プログラム

13:30 開始

開会挨拶・趣旨説明 並木 誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長）
広重名所絵について

講演

1. 大判カメラを担いで広重を追いかける
ブエノ・アレックス（東京大学グローバル教育センター特任講師）
2. 歴史を並べる 一定点写真とリフォトグラフィ
佐藤 守弘（同志社大学文学部美学芸術学科教授）

対談

ブエノ・アレックス、佐藤 守弘、並木 誠士

16:20 終了（予定）

※シンポジウム終了後、美術工芸資料館、附属図書館の展示をご覧ください

○講師（敬称略）

ブエノ・アレックス

1984年米国マイアミでキューバ亡命人二世として生まれる。プリンストン大学美術考古学学科卒業（美術史）。ハーバード大学文理大学・デザイン大学 建築学、ランドスケープアーキテクチャ及び都市計画学専攻博士課程修了。専門は日欧米近代文化史。現職は、東京大学教養学部附属グローバルコミュニケーション研究センター（のちグローバル教育センター）特任講師。プリンストン大学にてEmmet GowinやAndrew Mooreに写真を学び、東京大学在籍中に名所江戸百景の撮影を始める。

佐藤 守弘

1966年生まれ。コロンビア大学修士課程修了、同志社大学大学院文学研究科博士後期課程退学。博士（芸術学）。京都精華大学デザイン学部教授などを経て、同志社大学文学部美学芸術学科教授。専攻は視覚文化&メディア研究。著書に『トボグラフィの日本近代—江戸泥絵・横浜写真・芸術写真』、『学校で地域を紡ぐ—『北白川こども風土記』から』他。

並木 誠士

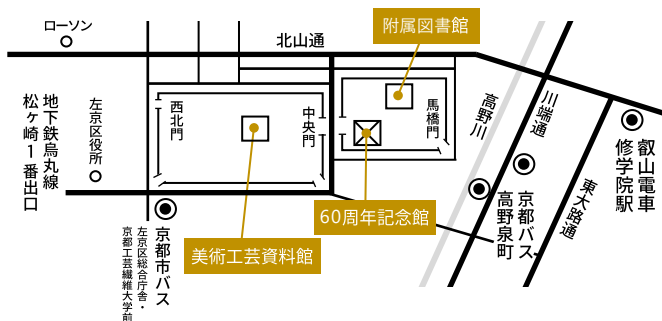
1955年生まれ。京都大学大学院文学研究科修了。徳川美術館学芸員、京都大学文学部助手、京都工芸繊維大学大学院教授を経て、京都工芸繊維大学特定教授、美術工芸資料館館長。著書に『絵画の変—日本美術の絢爛たる開花』『京都近代美術工芸のネットワーク』『日本絵画の転換点酒飯論絵巻—「絵画」の時代から「風俗画」の時代へ』『近代京都の美術工芸—制作・流通・鑑賞』他。

○アクセス

市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車、1番出口から徒歩約8分

京都バス「高野泉町」下車、西へ徒歩10分

叡山電車「修学院駅」下車、西へ徒歩15分



○展覧会情報

レンズを通して観る浮世—広重の名所の「いま」を撮る

期間 2024年11月18日（月）～12月21日（土）

会場 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

関連資料展示

期間 2024年11月18日（月）～12月21日（土）

会場 京都工芸繊維大学附属図書館